

inet

第42期
株 主 通 信

[2012年4月1日～2013年3月31日]

IR REPORT

株式会社 アイネット と株主様を結ぶコミュニケーション誌



[目 次]

ごあいさつ …	1
第42期のご報告 …	2
トップインタビュー …	3
皆様の暮らしを支えるアイネット …	7
第42期連結財務諸表の概要 …	9
トピックス …	11
CSR活動 …	13
会社の概況・株式の状況・IRカレンダー …	14
株主還元について …	15
株式メモ・ホームページのご案内 …	15

代表取締役会長
池田 典義

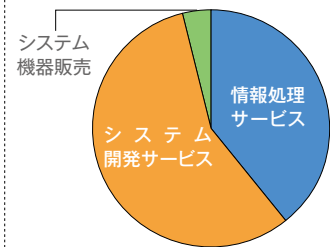
代表取締役社長
梶本 繁昌



平素は格別のご高配を賜り
厚く御礼申し上げます。

ここに、第42期株主通信をお届けするにあたり
謹んでごあいさつ申し上げます。

サービス区別売上高



情報処理サービス

売上高 **8,486**百万円
売上構成比 **39.3%**
前期比 **8.8%増**

システム開発サービス

売上高 **12,291**百万円
売上構成比 **56.9%**
前期比 **4.5%増**

システム機器販売

売上高 **808**百万円
売上構成比 **3.8%**
前期比 **0.3%減**

第42期のご報告

当連結会計年度におけるわが国経済は、年度前半は東日本大震災の復興需要や政策効果による緩やかな回復が期待されつつも、海外経済の減速等により弱含みで推移しました。その後、12月の政権交代を契機に円安進行や株価の上昇等、景気回復の兆しが見られました。

当社グループが属する情報サービス業界では、国内経済の先行きが不透明な中、企業のコスト削減や競争力強化等を目的としたIT投資に改善が見られました。

このような環境下、当社グループは継続して顧客企業とのリレーション強化や新規顧客の開拓を図りました。また、データセンターの基盤整備やクラウドサービスの拡充に注力し、普及期に入ったクラウド化の流れに迅速に対応いたしました。

以上の結果、売上高は、21,587百万円(前年同期比6.0%

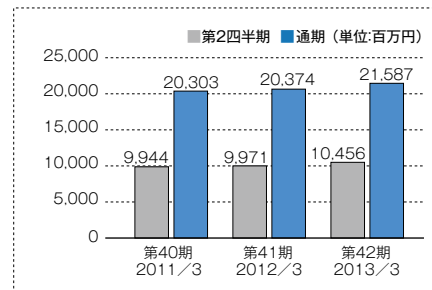
増)となりました。利益面につきましては、収益性の高い情報処理サービス売上が増加したことに伴い営業利益で1,538百万円(同26.7%増)、経常利益も1,487百万円(同33.7%増)となりました。特別利益に3D事業の譲渡に伴う事業譲渡益308百万円、特別損失に保有資産の見直しに伴う減損損失174百万円を計上した結果、当期純利益は885百万円(同49.4%増)となりました。

第43期(2014年3月期)につきましては、成長分野であるデータセンターやクラウドサービスの取り組みを強化して業容の拡大を図るとともに、収益性の高いストックビジネスの比率を高め、成長を確かなものとしてまいります。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

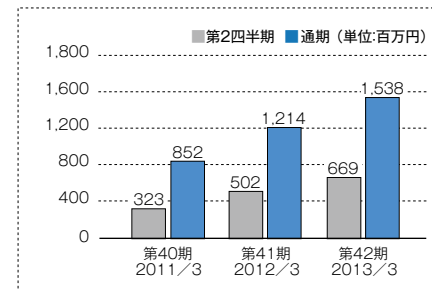
売上高

21,587百万円(前期比6.0%増)



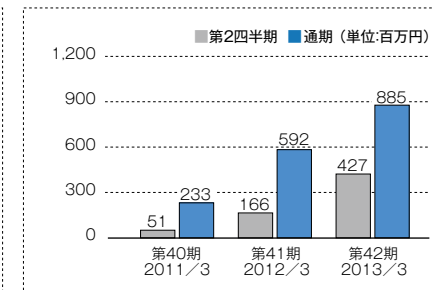
営業利益

1,538百万円(前期比26.7%増)



当期純利益

885百万円(前期比49.4%増)



Top Interview トップインタビュー

代表取締役社長
梶本 繁昌



営業利益で最高益を更新! 更なる成長へ向けて

中長期的な成長に向けた取り組みで、継続的な高収益企業を目指します。



Q1 前期(42期)の業績は いかがでしたか。

42期は、情報処理サービスを中心に売上を伸ばした結果、2期連続増収増益となりました。特に利益面ではストックビジネスの拡大が貢献しました。その背景には、普及期に入ったクラウド化の流れがあります。数年前から着手してきた、データセンター建設やクラウドサービスのメニュー拡充が成果となって表れてきました。官公庁や自治体関連からも、データセンターとBPO(帳票のプリント・封入封緘等)を組み合わせたワンストップサービスの案件を複数受注しています。

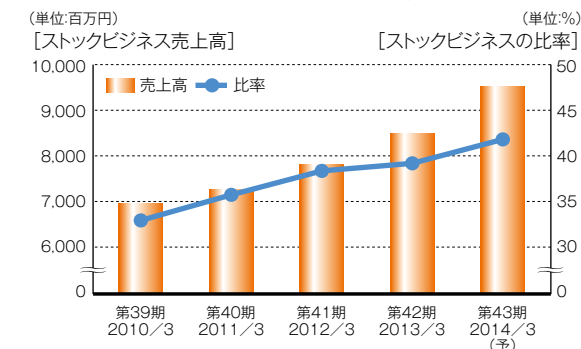
システム開発サービスにおいても、製造業、金融業を中心に、リーマンショック以降凍結していたIT投資に回復の兆しが見えており、年度後半より、受注も旺盛になってきて

います。

42期は、社員が一丸となって事業方針を実践した結果、営業利益で過去最高を更新することができました。

当社グループでは、情報処理サービス売上がストックビジネスに該当し、継続的に売上が計上できるビジネスを指しております。今後もストックビジネス拡大に注力し、更なる経営の安定化を目指します。

■ ストックビジネス(情報処理サービス)の推移



Q2 創業ビジネスであるSS向け ビジネスの状況はいかがですか。

ここ数年来、全国のSS(サービスステーションの略で、ガソリンスタンドのこと)数は減少傾向にありますが、経営合理化の為、自前処理をやめて当社に委託するSSが増えたことで、逆に当社処理SS数は増加しています。また、石

油元売各社は、合理化の為、系列SSの大型化や直営化を進めるなどシステム統合を図っております。このようなニーズを取り込んだ結果、SS向けビジネスは4期連続で過去最高益を更新中です。また、最近では、クレジット会社と連携し、SSで培ったノウハウを活用した債権保証や非対面決済などの金融ビジネスに乗り出し、他業種にもサービス拡大を図っています。

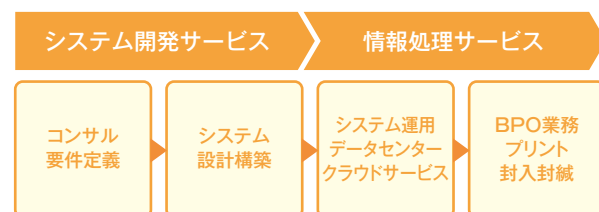


Q3 改めて、アイネットの強みを教えてください。

当社は、システム開発だけでなく、また、データセンター専業でもなく、システムの設計構築から運用、更には、セキュアな自社データセンターを活用して、安価で使いやすい様々なクラウドサービスを提供できます。また、請求書や各種帳票のプリントや封入封緘も行っており、ITに関わる上流から下流まで、一貫してセキュリティレベルの高い

サービスをワンストップで提供できます。これが当社の強みとなっており、他社との差別化を図っています。

■ 当社グループの強み 「ワンストップサービス」



Q4 今後の注力分野と取り組みを教えてください。

従来の国内IT投資は、長引くデフレの影響もあり、コスト削減やBCP対応といった「守り」の投資が中心でした。最近では、M2Mやビッグデータの活用という潮流もあり、売上拡大の為の「攻め」の投資に変わってきています。当社では、こうした変化に対応し、普及に拍車のかかるデータセンタービジネスやクラウドサービスに更に注力していきます。2009年に稼働した第2データセンターI期棟は90%受注済で、現在建設中のII期棟は2013年10月に稼働予定です。データセンターの収益を最大化する為、クラウドサービスの拡充を推進していきます。例えば、情報共

有ソフトやウェブを使った会議システム、監視カメラの映像がスマートフォン等で閲覧できるサービス、企業内で使えるチャットなどです。これらは業種を問わない汎用的なサービスであり、一般企業に広く販売していく予定です。更には、特定業務向けサービスも提供していきたいと考えています。

一方、システム開発においては、引き続き得意分野を深耕し、エンドユーザーとの直接契約の拡大に注力していきます。開発実績を元に、お客様との信頼関係を構築することで、データセンターや各種クラウドサービスといったストックビジネスの提供も可能となります。先に述べた強みをフルに生かし、お客様のビジネスを多面的にサポートしていきます。

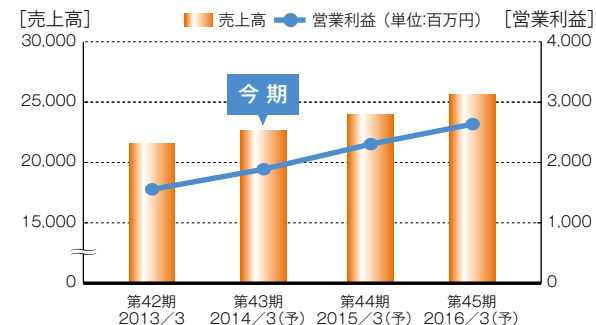
Q5 最後に、今後の事業方針と数値目標を教えてください。

引き続き下記の事業方針を掲げていきます。

- 事業方針 ① エンドユーザー志向
- ② スtockビジネスの拡大
- ③ 変化と進化

①と②については先程も申し上げましたが、これらを推進していく為には、社員一人ひとりが変化し、ノウハウを蓄積して、次に生かしていく必要があります。そのプロセスに

■ 中期収益イメージ（連結）



において、社員一人ひとりが成長・進化し、その結果、会社が発展・成長していきます。これからも、お客様の利便性向上を最優先に考え、当社の強みを最大限に生かしながら、会社を発展させていきたいと考えています。

これらの方針に則り事業を推進していくことで、45期には、売上高255億円、営業利益26億円を目指します。その1年目である今期(43期)は、第2データセンターII期棟の竣工に伴い、データセンタービジネスとクラウドサービスを更に向上させるとともに、システム開発サービスやSS向けビジネスも伸ばし、3期連続増収増益を計画しております。

■ 43期の計画

売上高	227億円
営業利益	18.9億円
営業利益率	8.3%
経常利益	17.3億円
当期純利益	10.0億円

最後になりましたが、引き続き、安定した高収益企業を目指し、グループ丸となって邁進してまいります。株主の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援ご鞭撻を賜ります様、よろしくお願いいたします。

「
用
語
解
説
」

クラウドサービス

データセンターにあるソフトウェアやデータを、インターネットを介して必要に応じて利用すること。または提供すること。

M2M(エムツーエム)

機械間通信のこと。近年スマートフォンや各種センサーの発達により、温度、湿度、機械稼働、位置情報、監視画像など様々なデータが収集可能となった。幅広い場所や時間帯で収集されたデータがビッグデータとして活用される。

ビッグデータ

大容量データのこと。各種購買情報やインターネット検索履歴、またM2M等から収集された大量データを総称して言う。従前よりPOSデータ等は収集されていたが、その数十倍から数百倍の規模で集められたデータを分析し、新たな傾向を見いだすことで、新たなビジネスチャンスを発生させる。活用例としては、機械稼働データの分析から障害の傾向や兆候の早期発見や、ネットの閲覧時間による購買行動の分析(閲覧したのに購入に至らなかった理由の分析等)がある。

[皆様の暮らしを支えるアイネット]

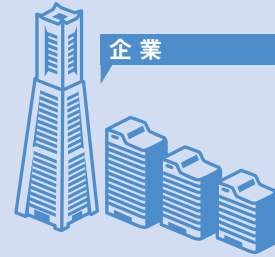
アイネットは、ITサービスで、皆様の生活や企

業活動をサポートしています。



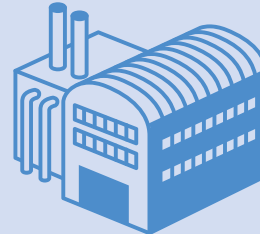
クラウドサービス

膨大なデータを分析し、様々な用途に活用しようという、ビッグデータ時代。当社のクラウドサービスも新たな方向へ進んでおります。まずは、クラウドサービスの名称を一新し、国内最高クラスのデータセンターを基盤に、新たなサービスラインナップも多数加えました。これからもお客様企業を通じ、間接的に皆様の生活へ大きな利便性をもたらすアイネットの新クラウドサービスを提供してまいります。



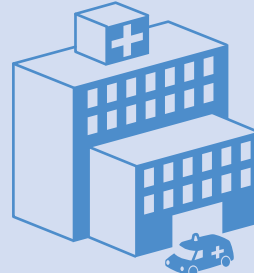
企業

製造・販売・物流・会計など様々な分野において、システムを開発し、導入後も継続的にサポートさせていただくことで、お客様のビジネスの発展に貢献しています。



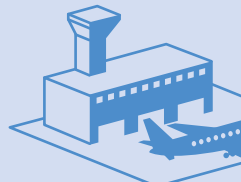
製造業

皆様の身の回りにあるデジカメなどの精密機器を高速化や省電力化する改善をしたり、便利で使いやすい機能を付加して、皆様にご利用いただいています。



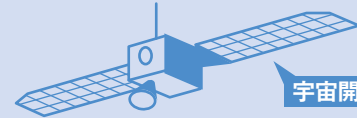
医療

人工心臓装置・カテーテルなどの医療機器や家庭でお使いになる在宅医療機器の設計開発を通じ、最先端医療を支えています。



航空/旅行会社

航空会社や旅行会社へ予約システムやチケットレスサービスなどを納入することで、皆様スムーズな予約をはじめ安全で快適なサービスを受けられる様サポートしています。



宇宙開発

様々な観測衛星の設計・検査・運用に参画し、カーナビの精度向上、地球環境変動の監視や災害予知に貢献しています。はやぶさや国際宇宙ステーションなどの運用にも携わり、宇宙科学の発展にも貢献しています。



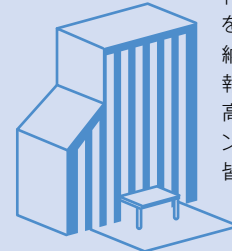
ガソリンスタンド

皆様がガソリンや灯油を購入される際に、スピーディかつ正確な精算が行われるよう、当社データセンターではクレジット決済業務や売掛処理を行い、SSのサービスを支えています。

銀行/ノンバンク



ATMや窓口における入出金、残高管理などの各種システムを開発し、サービス提供するとともに、キャッシュカードや各種通知、ご請求書などを作成し、皆様へお届けしています。



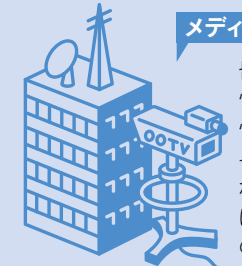
官公庁/自治体

行政機関からコンピュータをお預かりするとともに、納税や年金などの個人情報に関する重要な通知を、高セキュリティのデータセンター内で厳密に処理し、皆様にお届けしています。

コンビニ/スーパー



店舗システムを担当し、商品陳列から売れ筋商品の欠品防止、電子マネーやクレジットのご利用からポイント管理まで、身近な場所で皆様の生活の利便性向上に役立っています。



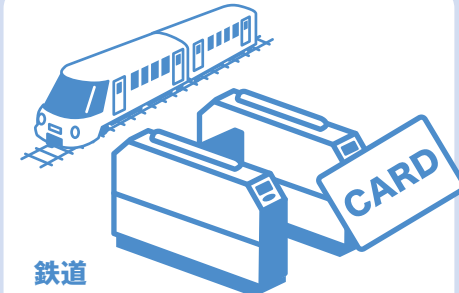
メディア(TV)

皆様へ信頼できる正確な情報をお届けするため、情報を発信し続けるメディアですが、当社はそんなメディアにおいて、皆様にも身近なテレビ放送の運用を支えています。



食品

ご家庭での焼肉が、我が家の一家団らの風景と、感じられる方もいらっしゃるのではないでしょうか。ご家庭へ「おいしさ」をお届けしている食品メーカーの、大切なコンピュータをお預かりし、運用しております。



鉄道

皆様が電車を利用される際に使用するICカード(SUICA、パスネットカード等)のセキュリティ管理や、正確でスピーディな精算処理を行うシステムの提供をいたしました。また2013年3月より開始された全国相互利用サービスの開発にも参画しました。



建設/建築

住宅は、皆様の生活においてとても重要な場所ではないでしょうか。そんな住宅を建てるために重要な、建築資材の在庫や仕入、売上などを管理するシステムの開発をハウスメーカーから受注し、再構築いたしました。皆様のお住まいを建てる際にもお役に立っているかもれません。

第42期連結財務諸表の概要

[損益の概要]

	前期 (2011年4月1日から2012年3月31日まで)	当期 (2012年4月1日から2013年3月31日まで)	増減率(%)
売上高	20,374	21,587 ポイント1	6.0
売上総利益	4,887	5,228	7.0
営業利益	1,214	1,538 ポイント2	26.7
経常利益	1,113	1,487	33.7
当期純利益	592	885	49.4

[資産・負債の概要]

	前期末 (2012年3月31日現在)	当期末 (2013年3月31日現在)	増減額
流動資産	7,230	7,566	336
固定資産	14,171	14,892 ポイント3	721
流動負債・固定負債	13,277	13,604 ポイント4	326
純資産	8,127	8,854 ポイント4	727
総資産	21,405	22,459	1,054

[キャッシュ・フローの概要]

	前期 (2011年4月1日から2012年3月31日まで)	当期 (2012年4月1日から2013年3月31日まで)	増減額
営業活動によるキャッシュ・フロー	2,192	1,890 ポイント5	△302
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,941	△899	1,042
財務活動によるキャッシュ・フロー	8	△1,073	△1,081
現金及び現金同等物の期末残高	2,556	2,474	△81

株主の皆さまに必要なIR情報を公開しております。
財務諸表の詳細はこちらでご確認ください。

<http://www.inet.co.jp/ir/index.html>

アイネット IR

[決算数値のポイント]

ポイント1 データセンターを活用したITマネージドサービスやクラウドサービスが好調に推移したことで情報処理システムサービスが前期比8.8%増となり、システム開発サービスの増(前期比4.5%増)と相まって、売上高は前期比6.0%増の21,587百万円となりました。

ポイント2 収益性の高い情報処理サービス売上が増加したことで、前期比26.7%増の1,538百万円となり、第35期(2006年3月期)以来の最高益を更新しました。

ポイント3 第2データセンターの増設や情報処理用ソフトウェアの投資により、固定資産は721百万円増の14,892百万円となりました。これらは、ストックビジネス拡大の為の積極的な投資となります。

ポイント4 社債償還や短期借入金返済により有利子負債残高が586百万円減少したものの、業容拡大によりその他の負債が838百万円増加した結果、負債残高は326百万円増加しました。

ポイント5 (営業活動によるキャッシュ・フロー)
利益及び減価償却費等の内部留保が2,914百万円ありましたが、一方で、法人税の支払757百万円もあり、1,890百万円の収入となりました。

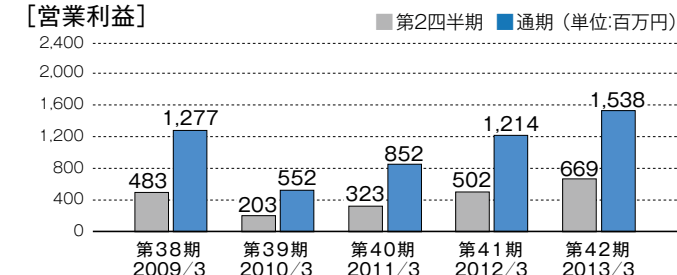
(投資活動によるキャッシュ・フロー)
事業譲渡の収入333百万円がありましたが、第2データセンターの増設や情報処理用ソフトウェア等固定資産の取得1,478百万円があったため、899百万円の支出となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)
有利子負債の返済や配当金等の支出により、1,073百万円の支出となりました。

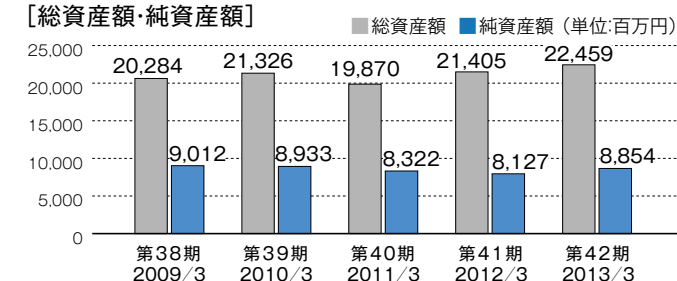
[売上高]



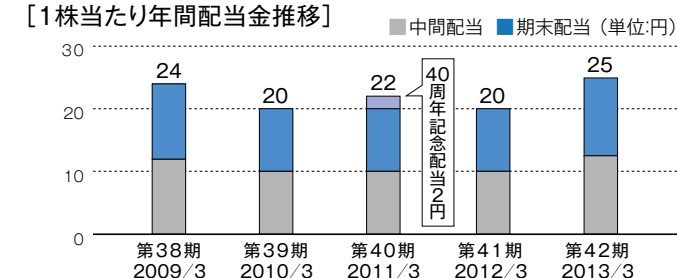
[営業利益]



[総資産額・純資産額]



[1株当たり年間配当金推移]



第42期の主な活動をご報告いたします。

[2012年6月]

株主総会後の事業説明会

2012年6月22日(金)に、第41回定時株主総会が横浜ベイホテル東急で開催いたしました。株主総会後の事業説明会では梶本社長が業績概要や今後の重点施策についての説明を行い、株主の皆様へ当社グループに対するご理解を深めていただきました。



IR

[2012年10月]

第2データセンターⅡ期棟着工

2009年6月に竣工した、当社グループとして3棟目となる第2データセンターⅠ期棟は、金融業から石油元売、更には外資系企業まで幅広いお客様にご利用いただいております。既に90%以上が受注済みとなっており、今後のビッグデータ時代の市場拡大を見据え、4棟目となるデータセンターを2012年10月に同敷地内に着工いたしました。なお、本データセンターはⅠ期棟同様、国内最高水準の安全性と最新のテクノロジーを備えた次世代型データセンターです。2013年10月にⅡ期棟が完成しますと第2データセンターのラック(コンピュータを収納する棚)数はⅠ期棟の1,000ラックと合わせると2,200ラックとなります。当社グループはこのデータセンターを核に高機能なクラウドサービスを展開することでさらなる成長を目指します。



完成予想図

営業

[2012年11月、2013年5月]

機関投資家向け決算説明会

IR活動の一環として、証券アナリストやファンドマネージャー向けに決算説明会を定期的(年2回)に開催しています。この決算説明会では、梶本社長から直近決算報告、事業方針、業界環境、当社グループの状況や業績予想等について説明いたしました。当社株価の適正化を図るためIR活動を推進してまいります。



IR

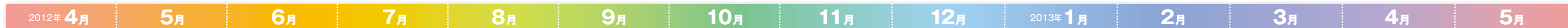
[2013年5月]

第4回クラウドコンピューティングEXPO春に出展

2013年5月8日(水)~10日(金)の3日間、東京ビッグサイトで開催された『第4回クラウドコンピューティングEXPO春』に出展いたしました。国内最高レベルのデータセンターを核にした企業向けクラウドサービスを展開しており、当展示会では、この春新たに発表した各種クラウドサービスを含め、クラウドインフラから共通アプリケーションまで約20種類を展示しました。プレゼンテーションタイムには立ち見が出るほどの盛況で、今回獲得しました引合いは、今後の営業活動に生かしてまいります。



営業



[2012年7月]

クラウドセミナー2012 東京ミッドタウン

2012年7月3日(火)、東京ミッドタウンにおいて、『企業IT投資のあり方を変えるクラウドサービス』と題して、当社主催のセミナーを開催いたしました。当社グループの先進的なクラウドサービスの全体像と今後の展望について、ユーザー事例を踏まえ具体的に説明いたしました。当日は500名を超える方にご来場いただき、スマートフォンやタブレットを活用したクラウドサービスを実感していただきました。今年も7月3日(水)に開催いたします。



営業

[2012年12月]

株主優待の専門誌に掲載

野村インベスター・リレーションズ株式会社が発行する『知って得する株主優待(2013年版)』に、2012年に新設した株主優待制度や事業内容等を掲載しました。このIR雑誌は全国の書店やコンビニエンスストアで販売されており、購読された個人投資家の方から多くのお問い合わせをいただきました。今後も引き続き認知度向上の取り組みを推進します。



IR

個人投資家向け会社説明会

2013年3月期に個人投資家向け会社説明会を複数回開催いたしました。展示ブースではスマートフォンやタブレット等を使い当社クラウドサービスを体験し、身近に感じていただきました。



IR

[2013年4月~]

ビッグデータ時代の新クラウドサービス「Dream Cloud®」のサービス開始へ

企業ニーズの拡大が進む「クラウドサービス」をさらに進化させ、ビッグデータ時代に対応した業種を超えて適用できる新クラウドサービス「Dream Cloud®」の提供を開始いたしました。ラインナップを一部ご紹介いたします。

サービス名称	サービス概要	サービス名称	サービス概要
Dream Office®	コラボレーション&コミュニケーションサービス 米国で35万ユーザが利用、単なるツールを超えた企業のデジタルバックボーン、「人が中心」の完全統合サービスです。	Mobile Meets®	HDビデオ会議クラウドサービス スマートフォンやタブレットに対応、ワンランク上のプレゼン品質のHDビデオ会議クラウドサービスです。
LiveCams®	クラウド型ネットワークカメラ映像閲覧サービス スマートフォンやタブレットに対応、いつでもどこでもリアルタイムにカメラ映像の確認が可能です。	thresh™	企業向けクラウドベースのチャットサービス 企業向けの管理機能とセキュリティを備え、チャットと豊富なスタンプでコミュニケーションの効率化を実現します。
Dream Signage®	クラウド型デジタルサイネージサービス 専用ソフトや専用機器は不要、既存のPCやタブレットを利用して、手軽にコンテンツの作成・配信が可能です。	Dream Storage®	クラウド型ストレージサービス 用途に合わせてストレージの種類を選択可能なクラウドストレージサービスです。
Virtual network solution	ネットワーク仮想化ソリューション データセンターやクラウドをまたぐネットワークをセキュアかつ柔軟に接続できる環境を提供します。	名刺バンク	名刺管理クラウドサービス 名刺データを安心・安全に預かりし、端末には名刺の個人情報が残らない仕組みのためいつでもどこでもセキュアに利用可能です。

営業

アイネットグループの主な社会貢献活動をご報告いたします。

障がいのある方の自律を支援

当社グループは、障がいのある方が、障がいのない方と同様に、その能力と適性に合った職業に就労し、自律した生活を送ることができる社会の実現に向けた支援も社会貢献活動のひとつと考えております。その取り組みとして、障がい者雇用の促進を目的として特例子会社の株式会社アイネット・データサービスを設立し、障がいのある方が「自立・成長・自律」できるよう支援を続けております。

特例子会社

「障がい者の雇用の促進等に関する法律」に基づき、企業が障がい者の雇用にあたり就労環境や就労条件など特別に配慮した子会社を設立し、一定の条件を満たしているとの厚生労働大臣の認定を受けた会社をいう。

株式会社アイネット・データサービス 経営理念

自立そして自律

自立 自らの力で、社会人として立ち立ちたいことを目指す

成長 自らの目標に向かい、努力することで成長を促す

自律 自らの考えに従って、行動できることを目指す

障がいを持つ社員個人が、自らの力で立ち立ち、そして自らの考えで行動できるように、私たちは応援してまいります。

その他社会貢献活動

当社グループは、地域での雇用創出や地域開催イベントへの協賛、文化活動への支援や災害支援を中心に積極的に社会貢献活動を行っております。

- **地域社会貢献** … 地域開催イベントへの協賛
地域での雇用創出
(パート、アルバイトの方の登録者数300名超)
- **文化活動への支援** … 文化団体や各種イベントへの協賛
- **災害支援** … 寄付を通じた災害支援並びに当社サービスの提供



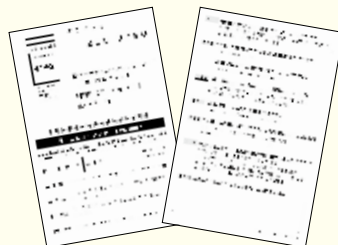
神奈川県フィルハーモニー管弦楽団を応援しています



当社で活躍するパート・アルバイトの方々(一部)

アンケートにご協力ください

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくために、アンケートを実施しております。お手数ではございますが、同封のアンケートはがきにご記入の上、7月31日までにご投函いただきますようお願い申し上げます。



同封のアンケートはがきをお送りください

商号 株式会社アイネット/I-NET CORP.
上場金融商品取扱い 東京証券取引所市場第一部(9600)
本社 横浜市西区みなとみらい三丁目3番1号
電話番号 (045)682-0800(代表)
URL http://www.inet.co.jp/
設立 1971年4月22日
資本金 3,203,992,690円
従業員数 1,349名(連結)/895名(単独)
(2013年3月31日現在)
事業内容 1.情報処理サービス
2.システム開発サービス
3.システム機器販売

役員 (2013年6月25日現在)
代表取締役会長 池田 典義
代表取締役社長 梶本 繁昌
専務取締役 田口 勉
常務取締役 鰐淵 浩
常務取締役 大嶋 均
取締役 野 和彦
取締役 佐伯 友道
常勤監査役 本村 晴樹
監査役 佐々木 伸一
監査役 大橋 秀夫
監査役 本合 紘

アイネットグループ
 株式会社ISTソフトウェア(連結子会社)
 http://www.ist-software.co.jp/
資本金 608百万円
事業内容 システム開発サービス
システム機器販売

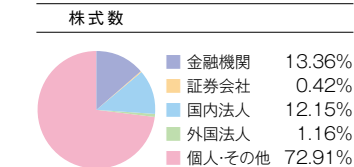
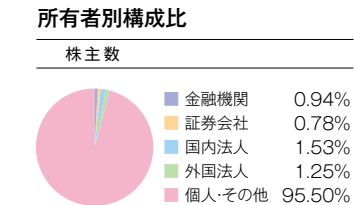
株式会社アイネット・データサービス(非連結子会社)
 http://www.inet-d.co.jp/
資本金 9百万円
事業内容 情報処理サービス

株式会社ラネクシー(持分法適用会社)
 http://www.runexy.co.jp/
資本金 100百万円
事業内容 システム機器販売
パッケージソフト開発・輸入・販売

株式の状況(2013年3月31日現在)

株主数 3,198名
発行可能株式総数 60,000,000株
発行済株式の総数 15,235,840株

大株主	株主名	持株数(株)	持株比率(%)
	池田 典義	2,018,190	15.49
	アイネット従業員持株会	1,329,015	10.20
	株式会社北川恒産	700,000	5.37
	株式会社横浜銀行 (常任代理人資産管理サービス信託銀行株式会社)	643,000	4.93
	有限会社エヌ・アンド・アイ	287,980	2.21
	日本生命保険相互会社	250,000	1.92
	三菱総研DCS株式会社	217,800	1.67
	トッパン・フォームズ株式会社	211,000	1.62
	日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社(信託口)	167,100	1.28
	黒川 宏子	150,110	1.15



注: 大株主について
 ・自己株式を2,204,905株保有しておりますが、左記大株主からは除外しております。
 ・持株比率は自己株式を控除して計算しております。

IRカレンダー

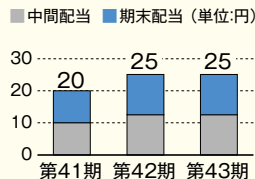
2013年7月31日	2014年3月期第1四半期決算発表
9月30日	中間配当金の基準日 株主優待権利確定日
10月下旬	2014年3月期第2四半期決算発表
11月下旬	2014年3月期第2四半期決算説明会
12月上旬	2014年3月期第2四半期株主通信送 中間配当金支払い
2014年1月下旬	2014年3月期第3四半期決算発表
3月31日	期末配当金の基準日 定時株主総会基準日
5月上旬	2014年3月期決算発表
中旬	2014年3月期決算説明会
6月上旬	定時株主総会招集通知発送
下旬	第43回定時株主総会 決議通知書、株主通信送 期末配当金支払い

株主還元について

■配当方針

1株当たり年間配当金25円

当社は将来の資金需要に備え内部留保を充実しつつ、安定的な配当を継続して実施することを基本としております。第43期は、1株当たり年間25円(中間配当金12.5円、期末配当金12.5円)を予定しています。



■株主優待制度

所有株式に応じてQUOカードを贈呈

当社は、株主の皆様の日頃のご支援にお応えするとともに、当社株式への投資の魅力を高めることを目的に、株主優待制度を導入しています。対象となる株主様にQUOカードを贈呈すると同時に、その10%相当額を別途、当社より福祉団体に寄付をする「社会貢献」に間接的にご参加いただけます。

対象株主： 毎年9月末日時点の株主名簿に記載された1,000株以上保有の株主様。

優待内容： 所有株式数に応じて当社オリジナルQUOカードを贈呈いたします。

所有株式数	優待内容
1,000株以上 3,000株未満	1,000円
3,000株以上 5,000株未満	2,000円
5,000株以上	3,000円

3年以上継続保有の場合は、さらに1,000円のQUOカードを追加

贈呈時期： 年1回、毎年12月(予定)にお届けいたします。

社会への貢献： 贈呈額の10%相当額を別途、当社より福祉団体に寄付をさせていただきます。

昨年12月に贈呈の株主優待分につきましては、公益社団法人全国精神保健福祉会連合会に全額寄付いたしました。

株式メモ

事業年度 4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当の基準日 3月31日(なお、中間配当を行う場合は9月30日)
定時株主総会 毎年6月
上記基準日 3月31日
(その他必要がある場合は、あらかじめ公告する一定の日)

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 東京証券取引所
公告の方法 電子公告により行います。

公告掲載URL

<http://www.inet.co.jp/denshi-koukoku/>

(ただし、電子公告によることができない事故、その他やむを得ない事由が生じた際には、日本経済新聞に公告いたします。)

【ご注意】

- 株主様の住所変更、単元未満株式の買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、上記特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問合せください。なお、三菱UFJ信託銀行全国各支店にでもお取次ぎいたします。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

ホームページのご案内

トップページよりIR情報をお選びいただくと、最新情報をご覧いただけます。

■アドレス
<http://www.inet.co.jp/>

アイネット

検索



(商標について) 記載されている製品名などの固有名称は、各社の商標または登録商標です。